2017年１月/新年会報告

2017年１月７日（土）　午後３時より、東大駒場キャンパスの交流ラウンジ（学生食堂３F）を会場として、本年度の新年会が催された。
不順な天候で寒い日が続き、インフルエンザも流行していて、会長はお休み。永らく会場確保のために便宜を図っていただいた前・理
事長の川中子義勝氏は春には大学を退任される。何人もの方が今までの労を労われていた。

新しい年が、どんな一年となるのか、仕切り直しの新たなスタートを寿ぎつつ、皆で和やかなひとときを過ごした。
以下のスナップで当日の様子をご覧ください。

比留間元会長の乾杯他、冒頭部分

太田理事長

久々の方もいて、皆で新年揃いぶみ――サムネイルにしましたので、クリックし拡大してご覧ください。

いつも受付、ご苦労さまです。

高山利三郎氏

前・理事長　川中子義勝氏　会場のお世話を、有難うございました。

元・会長　佐久間隆史氏「スピーチは嫌だ、って言ったのに…」のスピーチと木遣り節

中原道夫氏

㈳日本詩人クラブ新年会のご案内

新しい年への希望を、お互いの健康と詩作等の抱負とともに
楽しく語り合いましょう。
どうぞ、お誘い合わせの上、ご出席ください。
平成28年12月吉日

会長・武子和幸

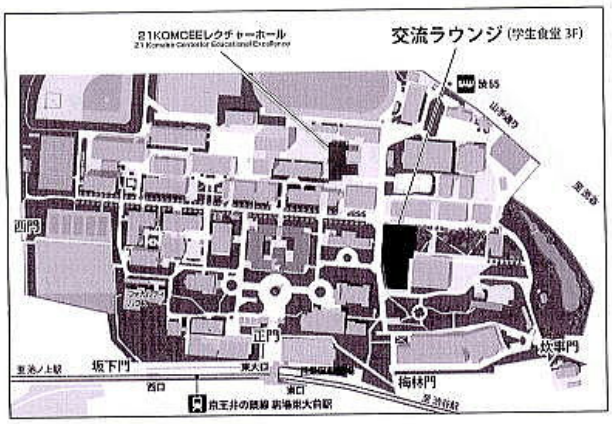
（記）

日　時　2017（平成29）年1月7日㈯　午後3時より

会　場　東京大学駒場キャンパス
交流ラウンジ（学生食堂 3F）
〒153－8902 東京都目黒区駒場 3－8－1　TEL 03－5790－5931
京王井の頭線「駒場東大前駅」東口下車

会　費　4,000円（当日、受付にて）

（出欠のハガキは同封していません。直接会場へお越しください）



[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2017年１月

第十期「詩の学校」
第六回　中井ひさ子講師による合評会＆閉校式

１月28日（土）14時～16時50分、一般社団法人日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期第六回「詩の学校」が実施された。参加者は30名にのぼった。
、 以下、合評会と閉校式が行われた第十期最終回のもようを、林担当理事の第８回理事会資料に基づいて、ご報告する。

【合評会】　講師　中井ひさ子氏
・まず〈詩に向かう心構え〉を自身の考えで述べられ、その後各人の作品の合評に入った。本人朗読、参加者の意見・感想、最後に講師の順で実施。
・毎回参加の理事（中村、鈴切、下川、谷口、林）に、受講生の意見がない場合を考慮し、事前に担当を決め講評をお願いした。
・今回19作品と多かったため、一人６分程度しか時間がとれず、事前に、郵送した参加作品集を読んで感想・意見をまとめておくように受講者に要請しておいたが、
結局終了時間を20分ほど延長した。参加者各自には講評の要点は得られたと思われるが、いま少し余裕が欲しかった。

【閉校式】　武子和幸校長挨拶
・参加者作品を例に挙げながら、受講生の今後の取り組みを激励し、併せて日本詩人クラブの今後の方向性などを交え、閉校の挨拶をされた。

＊終了後、集合記念写真。　懇親会を「台湾料理店・源記」で実施（23名参加）

（林担当理事 記）

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

今期も無事、終了しました。皆さま、ご協力有難うございました。

司会・林哲也担当理事

中井ひさ子講師

閉校式冒頭　武子和幸校長

会場風景いろいろ

受付・あさい裕子・田中裕子

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2015年2月

第３４回　詩のサロン

日　時　　２月１２日（木）　　１８：００～２０：００（会費５００円）

会　場　　日本詩人クラブ事務所

内　容　　「中原道夫の世界」（最新詩集およびエッセイの鑑賞）

ゲスト　：　中原道夫氏

中原道夫氏

中原道夫氏による講演は、「アイロニー」と「喩」というものを詩作の根底に据えた興味深いお話

でした。氏は、詩作は絶対に自分の体験から出なければだめだと説きます。そして、詩作にとって、

リズムがいかに大切かということを。今回の講演では、自作詩の他に、草野心平、相馬大、北川

冬彦、菊池貞三、山本みち子、といった詩人各氏の作品にも触れ、詩というものの醸す味わいに
ついて、ユーモアを込め語ってくださいました。
とくに、奥様を亡くされて間もなく書かれたという「雪の朝」「保険金」の二作品は、読者のひとりと
して、気持ちに沁み入るものがありました。参加者は、24名。盛会でした。

（長谷川忍・記）

２月例会

日　時　２月１４日（土）　１４：００～１７：００
会員・会友無料　一般500円

会　場　東大駒場キャンパス２１ＫＯＭＣＥＥ・レクチャーホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門直進徒歩４分。建物エレヴェーター１ＦよりＢ１へ

例会終了後、隣接のMMホールで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

朗読＆スピーチ　岩重美江氏（川崎市）　薄井清美氏（西東京市）　西野りーあ氏（板橋区）

講　演　『母、そして詩人 高田敏子』　講師・久冨純江氏

司会　　長尾雅樹氏（左）　安川登紀子氏(右）

岩重美江氏（詩の朗読＆スピーチ）

薄井清美氏（詩の朗読＆スピーチ）

西野りーあ氏（詩の朗読＆スピーチ）

久冨純江氏（講演）

高田敏子氏写真（久冨純江氏所有）

竹内美智代氏（講演進行役）

山本みち子氏（高田敏子作品朗読）

柳生じゅん子氏（高田敏子作品朗読）

「野火」同人の皆さんと

懇親会風景

２月例会のメイン講演は、詩人で、故、高田敏子氏の長女でもいらっしゃる久冨純江氏による『母、そして詩人高田敏子』。娘の立場から見た高田敏子氏の、生活と日常に焦点を当てたお話でした。講演途中、会場のスクリーンには久冨氏所有の高田敏子氏の若き日から晩年までの写真が多数紹介され、会場に詰めかけた方たちの眼を奪っていました。

同人誌「野火」を主催して以降の高田氏は、多忙を極めたそうですが、詩を書きたいという氏の熱意が、自身の詩作、ひいては「野火」での息の長い活動に繋がっていったのでしょう。久冨氏のお話は、分かりやすく、親しみの持てるものでした。講演の進行役は、竹内美智代氏が担当。

会場には、「野火」の同人でいらした諸氏が遠方からも駆けつけ、さながら同窓会的な雰囲気を醸していました。会場には100名近い方々が集いました。、高田敏子氏の人気の高さをあらためて実感した次第です。

（長谷川忍・記）

２月例会報告

２月11日（土）　午後２時〜午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、2017年度初となる２月例会が催された。
恒例の冒頭の「詩朗読＆スピーチ」は――熊沢加代子（東京都）・幸田和俊（栃木県上三川町）・高橋絹代（静岡市）の三氏。
５年前の2012年、日本詩人クラブが2009年度の「国際交流インド」の発展的事業として、タゴール生誕150周年を祝うインドを訪問団を組んで訪れた「タゴールの故郷を訪ねる旅」の途上、タゴール国際大学での交流で知り合った日本学院助教授シュデイプト・ダスも新婚の奥様を伴って、高橋絹代さんのご案内で参加された。

しかしながら主講演の高柳 誠氏が発熱を伴うインフルエンザで急遽、欠席の已むなきに至ったことは口惜しかった。
太田理事長・下川敬明両氏が、労作の一部を朗読、武子会長が高柳詩論についての小講演を行い、会場とのディスカッションを試みることで、高柳氏の貴重なヴィジョンを一部なりとも分かち合うことができた、と思う。詩を書くものにとっては心に響く言説が多々あり、氏の近著『詩論のための試論』を手にとってみたいと思った方々は多かったことだろう。

次回の三月例会は３月11日（土）午後２時より、「あの日」からちょうど６年目の当日、川口晴美氏をお迎えして「３・11と詩とサブカル」と題した講演をお聞きする。トップ画面左欄の「３月例会予告」をご参照いただきたい。

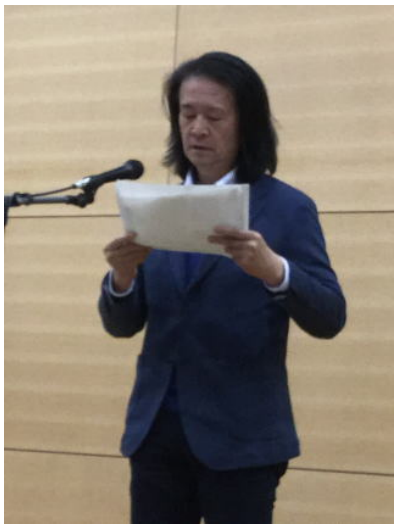
♣例会終了後には、ファカルティ・ハウスのレクチャーホールで懇親会が行われた。

武子会長の挨拶

朗読１・熊沢加代子氏（東京）

朗読２・幸田和俊氏（栃木県上三川町）

朗読３・高橋絹代（静岡市）



例会担当・冨岡理事＆MCの川崎芳枝・長尾雅樹両氏
下川敬明氏による朗読

太田理事長の朗読とお話

↑武子会長の小講演＆会場風景 ↓

パーティ会場へ移動

MC/長谷川総務担当理事

元会長・比留間一成氏

タゴール大学日本学院助教授ダスさんの紹介

社日本詩人クラブ　2017年 2月　例会のご案内

日時　2017年2月11日(土) 14時～17時　　会員・会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車、東大正門右手直進DKOMIZUKI左手横、徒歩4分

例会終了後、ファカルティハウスで交流会（懇親会）が未定です。会費1000円

詩朗読＆スピーチ　熊沢雄代子氏（東京都）
幸田利恵氏（栃木県上三川町）
高橋麗代氏（静岡市）

講演

「詩論のための試論」

講師 高柳誠氏

講師プロフィール

高柳誠（たかやなぎ　まこと）氏

1950年名古屋市生まれ。国学院大学文学部卒業文学部卒業。詩集に『アリスランド』（中原賞　1980年）、『神学校／水晶宮／神無月』（高清賞　1982年、H氏賞）、『原初の青龍』（潮出版社　1989年、鳥取県賞）、『現代俳句』（思潮社　1992年）、『雨』（書肆山田　1995年）、『夢々忘るる矢白』（潮出版社　2001年）、『全うな狂とる詩へ』（書肆山田　2010年）、『大風の夜、火のパ／昼夜の歌、虫の唄』（書肆山田　2012年）など。新潟県三島郡『青年の郷宣言』『地球の明日学』『星雲の探偵者』（潮出版社　2007年）で郷村記念詩賞を受賞。2004年訪問、ドイツ各都市で朗読会を開催。評論に『リーメンシュナイダー　中世彫刻の傑作家』（五柳書院　1990年）など。2004年には『高柳誠 詩集成 1』『高柳誠 詩集成 II』（書肆山田）、『詩論のための試論』（玉川大学出版部）を刊行。

例会担当理事　菅野悦子

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2017年４月

「2016年度 三賞授賞式」報告（2017年４月８日実施）

例年より一週間ほど遅れて桜が満開となった４月８日（土）、本年度は場所を変え、三賞の贈呈式と記念パーティが、神楽坂の日本出版クラブ会館で催された。詩界賞特別賞を含む四賞の受賞式となった今年は、馴染みの深い詩人たちばかりでなく、岡山から上京された日本詩人クラブ賞受賞者の岡隆夫氏はじめ、アカデミック分野や出版・音楽関係者など、多方面からの多士済々の顔ぶれで、いつも以上に豊かな盛り上がりをみせた会となった。

当日のスナップをご紹介しつつ、当日ご参加不可能だった方とも、その雰囲気のいったんを分かちたく思います。

●三賞贈呈式●

オープニング：　左から司会―下川敬明氏＆船木倶子氏

開会の言葉―太田理事長

冒頭の挨拶―武子和幸会長

選考経過報告―三賞担当理事・村尾イミ子氏

各賞選考委員長―左から日本詩人クラブ賞／北岡淳子氏

日本詩人クラブ新人賞／塚本敏雄氏

日本詩人クラブ詩界賞／加藤寛行氏

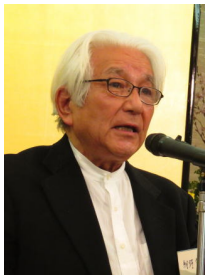
第50回日本詩人クラブ賞受賞　岡隆夫氏―左から賞の贈呈・受賞者の紹介／結城 文氏・花束贈呈 ・受賞詩集『馬ぁ出せぃ』から、岡氏の朗読

第27回日本詩人クラブ新人賞受賞　草野早苗氏―左から賞の贈呈・受賞者の紹介／八木幹夫氏・花束贈呈 ・受賞詩集『夜の聖堂』から、草野氏の朗読

第17回日本詩人クラブ詩界賞受賞　亀井俊介氏―左から賞の贈呈・受賞者の紹介／平石貴樹氏・花束贈呈 ・受賞者の挨拶

第17回日本詩人クラブ詩界賞特別賞受賞　清水 茂氏―左から賞の贈呈・受賞者の紹介／藤井喬梓氏・花束贈呈 ・会場風景１

下も会場風景↓



閉会の言葉―前会長・細野 豊と、会場風景

●パーティ風景●

左から司会―長谷川 忍と田中裕子、会長挨拶、来賓挨拶―以倉紘平、会場風景

お祝いの言葉（岡隆夫氏へ大掛史子氏 、草野早苗氏へ高山利三郎氏、亀井俊介氏へ粒良未散氏、清水茂氏へ冨長覚梁氏へ）、乾杯は比留間一成氏

↑　会場風景　↓

授賞式プログラム
&
三賞のページへのリンク

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

一般社団法人「日本詩人クラブ鹿児島大会2017」報告（2017年５月13日実施）

去る５月13日（土）午後13時半より、ホテルパレスイン鹿児島を会場として、「一般社団法人 日本詩人クラブ鹿児島大会2017」が、118名の参加者を集めて催されました。会員の全国分布を考えても、長距離を移動して本土最南の地へ足を運ばれた方々が多いことがうかがわれます。そのぶん参加者の大多数が懇親会に残られ、郷土色豊かなプログラムを楽しまれました（懇親会参加者108名）。
以下、盛大でアットホームな一日となった鹿児島大会を振り返り、翌日の知覧→唐船峡→薩摩半島最南端・長崎鼻→城山とめぐったバスハイクの模様を添えてご報告いたします。
準備に実施に尽力された関係者の皆さま、たいへんお疲れさまでした。充実した二日間を、ありがとうございました。

●大会●13:30～17:15

第一部　セレモニー、冒頭の挨拶、理事長報告（理事の紹介）、受賞者による詩朗読

高岡修実行委員長

武子和幸日本詩人クラブ会長

司会＝山下久代氏
来賓挨拶＝南日本新聞社文化部部長

上：　開会のことば＝大会実行委員長

下：、主催者挨拶＝JPC会長

原田茂樹氏

会長と、太田雅孝理事長（報告と理事紹介）

会場風景

第50回日本詩人クラブ賞受賞・岡隆夫氏による詩朗読　　第27回日本詩人クラブ新人賞受賞・草野早苗氏による詩朗読

第二部　〈宮沢賢治／人と詩と音楽と〉

宮沢和樹氏（賢治の弟の宮沢清六氏の孫）による講演　　スクリーンに映し出された資料の１―宮沢家の人々　　宮沢やよい氏（和樹氏夫人）によるピアノと詩の朗読

第三部　鼎談 〈詩人の血・維新の血〉

宮沢和樹氏×西郷隆夫氏（西郷隆盛の曾孫×高岡修委員長のことば―宇宿一成氏　　閉会

●懇親会●18:00～20:30

オープニング＝薩摩琵琶演奏 by 山下 剛氏（鹿児島迅社宮司）　開会のことば＝中村吾郎地方大会担当理事　乾杯の音頭＝熊副 穣氏（鹿児島県文化協会会長）

会場風景

アトラクション＝かごっま弁による朗読と芝居代氏（鹿児島県いちき串木野市出身）　閉会のことば＝竹内美智

●宮沢和樹・西郷隆夫と巡る南薩・城山への文学散歩●

2017年５月14日（日）ホテル出発8:30～知覧（特攻平和会館）～唐船峡（昼食ソーメン流し）～薩摩半島南端長崎鼻～鹿児島中央駅～城山～南州墓地～ホテル着17:00

↑　知覧から唐船峡へ、流しソーメンで昼食　↓

長崎鼻で集合写真（クリック！）　　城山での集合写真　　**途中で見かけた珍妙な看板とかごっま弁リスト**

[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

2017年7月 例会報告

日時　2017年7月8日（土）午後2時～5時

場所　早稲田奉仕園 リバティホール

2017年7月8日（土）午後2時から早稲田奉仕園リバティホールにおいて、日本詩人クラブ7月の例会が梅雨時とは思えない猛暑の中、43名の参加を得て開催されました。講演は新会長と新理事長によるもので、司会は太田康成、宮本苑生の両氏。

谷口典子担当理事によるご挨拶の後、長尾雅樹理事長が「日本詩人クラブ発足と淵源について」と題した講演を行いました。日本詩人クラブの黎明期を沿革に沿い、著名な詩人たちの様々なエピソードを交えながら語られました。河井酔茗、蒲原有明などの詩の朗読も行われました。続いて川中子義勝会長の講演「山の詩・故郷の詩」が行われました。①山の詩、その形而上学②登攀と歩行③故郷の詩、「帰郷」の主題の3部構成で、秋谷豊の詩を中心に、リルケ、伊東静雄、ヘルダーリンなどの詩も絡めながらお話しいただきました。

例会終了後は近隣のサイゼリヤで懇親会が行われ、大変賑やかな会となりました。

新会長、新理事長の講演要旨は「詩界通信」80号に掲載いたします。

長尾雅樹理事長の講演

川中子義勝会長の講演

谷口典子担当理事の挨拶

例会風景

2017年9月 例会報告

日時　2017年9月9日（土）午後2時～5時

場所　早稲田奉仕園 リバティホール

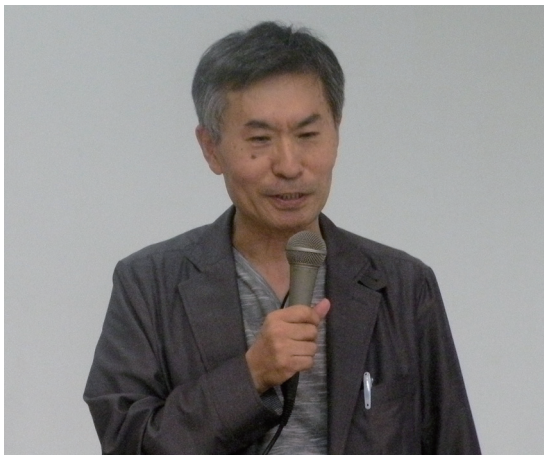
残暑の残る 2017 年 9 月 9 日（土）午後 2 時から早稲田奉仕園リバティホールにおいて、日本詩人クラブ 9 月の例会が開催されました。参加者は 74 名。講演は第 50 回日本詩人クラブ賞受賞の岡隆夫氏と第 17 回日本詩人クラブ詩界賞特別賞受賞の清水茂氏でした。司会は宮本苑生氏。

まず川中子義勝会長によるご挨拶があり、山梨県南アルプス市のこまつかん氏と、埼玉県越谷市の宮尾壽里子氏の詩朗読とスピーチが行われました。

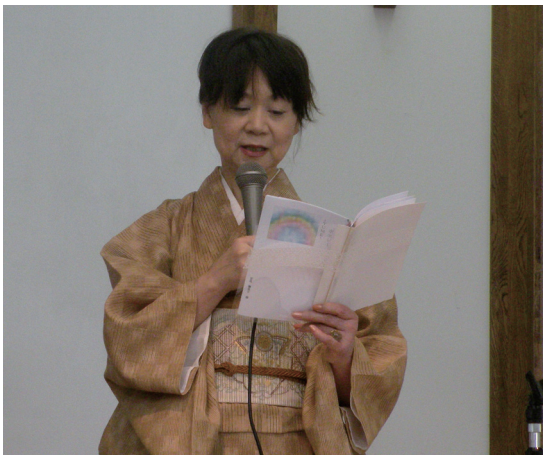
その後の講演は岡隆夫氏の「現代詩における繰り返しの効用について」からスタート。ディキンスン、イエイツなど英米の詩人と詩について語られました。休憩後は清水茂氏の「晩年のイヴ・ボヌフォワ」と題した講演が行われ、イヴ・ボヌフォワから直接聞き取った言葉などを交え、ボヌフォワの人物像を浮き上がらせる内容となりました。

例会終了後は近隣のサイゼリヤで懇親会が行われ、今回も大変賑やかな会となりました。

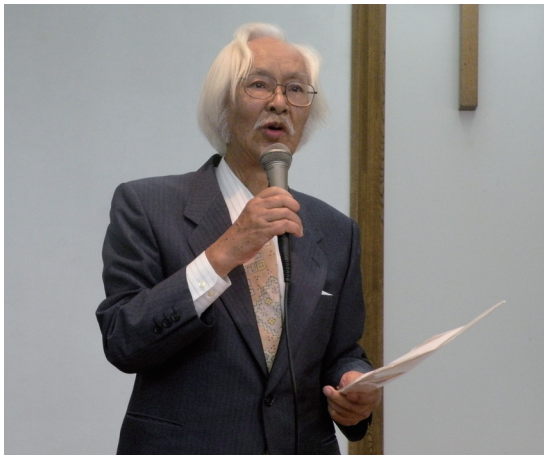
岡氏、清水氏の講演要旨は「詩界通信」81 号に掲載いたします。



こまつかん氏の詩朗読とスピーチ



宮尾壽里子氏の詩朗読とスピーチ



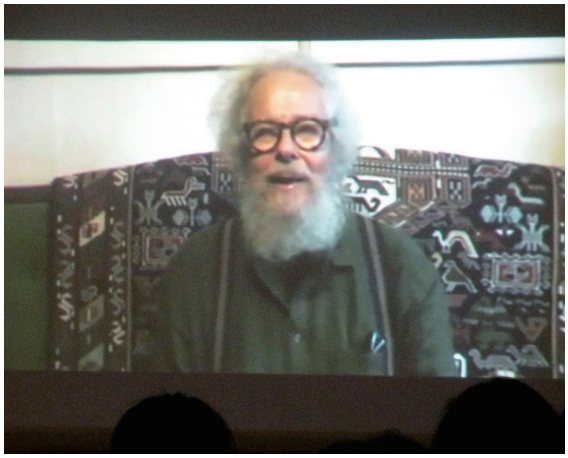
岡隆夫氏の講演

清水茂氏の講演

国際交流フィンランド２０１７

―森と湖の北方から詩と文学の深い調べ―

日時　2017年10月14日㈯　講演会14時～17時　懇親会17時30分～19時30分
場所　日本出版クラブ会館・きくの間



カイ・ニエミネン氏

末延弘子氏

秋の午後、フィンランドの文学と音楽が、ほぼ満席 114 名の心に響いた。独立一〇〇周年。強国に挟まれて苦難の末に独自文化を育み、叙事詩『カレワラ』を原点にもつ。

急病手術で来日できなくなった詩人・翻訳家のカイ・ニエミネン氏が、手術直前のフィンランドから渾身の特別動画講演「フィンランド文学における日本文学の影響」を送ってくださった。スクリーンにはこちらを親しく見つめて日本語で語るカイさんのアップ。背後に虫の音も聴こえ、自然豊かな彼の地から、独立前にまでさかのぼる日本文化受容の足跡が今日に至るまで語られた。国際情勢をめぐる複雑な関係性の中で強調されたのは、戦争とは別の次元で滔々と日本文学が愛読されてきたことだ。右派だったり左派だったりその時々の輸入母体は変わっても、日本のさまざまな文学が書物や新聞やラジオで親しまれてきたという話に驚かされる。日本の詩歌、松尾芭蕉、与謝野晶子、小泉八雲、菊池寛、徳永直、大岡昇平、谷崎潤一郎、川端康成、太宰治、開高健。日本の短歌から学んで独自に発展させたフィンランド語短歌が盛んだという話も新鮮だった。大江健三郎や『源氏物語』などをフィンランド語に翻訳しただけでなく、現代詩人として多数の受賞歴をもつカイ・ニエミネン氏の詩世界と人となりを、紹介者の本多寿氏が語られた。本多さんによって朗読されたカイさんの詩は、自然の中に生きる深い心と内省的な文明批評が光った。

続いてフィンランド文学研究家・翻訳家の末延弘子氏の講演「カレワラから現代作品まで貫くフィンランド文学・文化の本質」。叙事詩『カレワラ』の豊かな世界が紹介された。語り継がれた神話を採集し、独自の編集作業でひとつの壮大な詩物語にまとめたエリアス・リョンロットの功績と独立運動との関わり、登場人物（神）の魅力、自然の優位性と森羅万象との対話における日本文化との共通性、詩が国の文化の土台となっていることなど。トーベ・ヤンソン『ムーミン』の話に続いた。その登場人物は約六〇にものぼるそうで、全員が主人公というところにフィンランド文化の思想的な特長を力説された。意見の相違

を大事にして「私」を尊重しながら話し合う風土があるとのこと。現代作家レーナ･クルーンの作品世界も紹介され、資料では現代詩人オッリ・ヘイッコネンの詩もあった。シベリウスの『樹の組曲』から「樅の木」のＣＤがかけられ、会場は北緯 60 度の森の中にワープした。わかりやすくて深い講演は大変好評で『詩界』265 号（来年四月刊行）に全文掲載予定である。

はざた雅子氏によるフィンランド伝統楽器カンテレの演奏。フィンランド衣裳と珍しい楽器に参加者の目も釘づけだ。不思議な深い音色で八曲の繊細な調べに癒やされる。特にフィンランド民謡のしんみりと哀切な名演奏には会場が静まりかえった。音楽も詩の心、そんなはざたさんの優しい演奏だったが、会場を爆笑させる愉快なトークも光った。

後援のフィンランド大使ユッカ・シウコサーリ氏からは懇親会でフィンランド語のご挨拶（通訳・末延弘子氏)。独立一〇〇年の若い国だが『カレワラ』以来の詩と文学を根底にすえたあり方は、国民多数の図書館利用に象徴される読書を愛する風土につながっている。文学や芸術を通じた心のつながりで、戦争などに満ちた現代世界を乗り越える力をもつだろうというお言葉に勇気づけられた。後援の日本現代詩人会国際交流担当理事・鈴木豊志夫氏からも講演会でご挨拶をいただいた。

会長の川中子義勝氏は講演会と懇親会の挨拶で、出演者への共感的な感想やフィンランドに学ぶ詩や文学愛好の心などを語った。講演会の開会挨拶は顧問の細野豊氏、閉会挨拶は理事長の長尾雅樹氏。司会は、講演会が谷口ちかえ氏と佐相憲一、懇親会が下川敬明氏と石下典子氏であった。会外からの参加者が多いのも今回の特長だった。

参加者からは盛会を喜ぶ声が多々寄せられて、中身濃い詩情に満ちたつどいとなった。

（担当理事・佐相憲一）

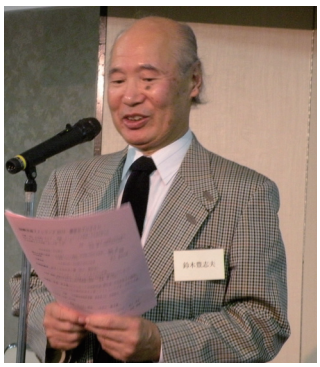
はざた雅子氏

谷口ちかえ氏　佐相憲一氏

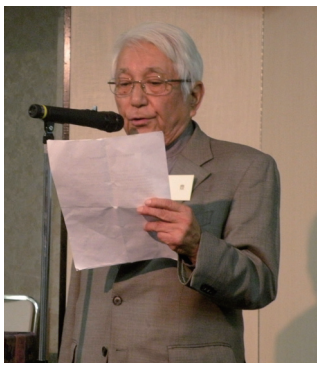
ユッカ・シウコサーリ氏

本多寿氏

川中子義勝氏



鈴木豊志夫氏



細野豊氏

長尾雅樹氏

石下典子氏と下川敬明氏

太田雅孝氏

清水茂氏

講演会会場風景

懇親会会場風景

2017年11月 例会報告

日時　2017年11月11日㈯　午後2時～5時

場所　中野サンプラザ　8階研修室2番

秋も深まる 2017 年 11 月 11 日（土）午後 2 時から中野サンプラザの 8 階研修室 2 番において、日本詩人クラブ 11 月の例会が開催されました。講演は高見順賞、三好達治賞など多くの賞を受賞されている粕谷栄市氏のお話でした。司会は宮本苑生、下川敬明の両氏。

まず川中子義勝会長によるご挨拶があり、その後、さいたま市の平木たんま氏、所沢市の出雲筑三氏、川崎市の原田もも代氏、世田谷区の森雪拾氏の 4 名による詩の朗読とスピーチが行われました。

休憩後の講演は粕谷栄市氏「今日を生きる詩」と題し、“厭世の感情”“臨死の感情”などのキーワードと共に散文詩の真髄、詩との根源的な関わりについて語っていただきました。

例会終了後は近隣の魚民で懇親会が行われ、多くの方にご参加いただき、大変賑やかな会となりました。

粕谷氏の講演要旨は「詩界通信」82 号に掲載いたします。

粕谷栄市氏の講演

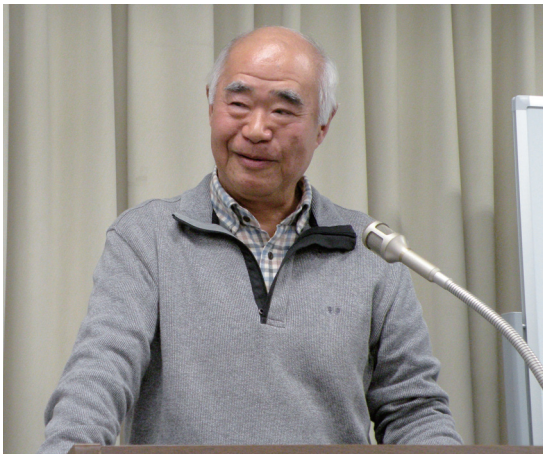
会長挨拶

司会　宮本苑生氏・下川敬明氏

理事長の閉会の言葉

会員による詩朗読とスピーチ

平木たんま氏



出雲筑三氏

原田もも代氏

森　雪拾氏

2017年12月 例会・忘年会報告

日時　2017年12月16日㈯　14時～16時20分（例会）・17時～19時（忘年会）

場所　東京グランドホテル　３階「桜の間」（例会）・「蘭菊の間」（忘年会）

2017 年 12 月 16 日（土）午後２時から東京グランドホテル３階「桜の間」において、日本詩人クラブ 12 月の例会が開催されました。講演は戦後世代を代表する詩人のひとりとして、現代詩の先端を走りつづける野村喜和夫氏のお話でした。司会は宮本苑生、下川敬明の両氏。

まず川中子義勝会長によるご挨拶があり、その後、なべくらますみ氏（狛江市）、草薙定氏（栃木市）の２名による詩の朗読とスピーチが行われました。

休憩後の講演は野村喜和夫氏「わが詩法―詩篇『エデンホテル』を中心に」と題し、自作詩「エデンホテル」を１行ずつ深く丁寧に解説していただきました。

例会終了後は近接の「蘭菊の間」で忘年会が行われ、講師の野村喜和夫氏をはじめ多くの方にご参加いただき、大変和やかな会となりました。

野村氏の講演要旨は「詩界通信」82 号に掲載いたします。

野村喜和夫氏の講演

会長挨拶

なべくらますみ氏の詩朗読とスピーチ

草薙定氏の詩朗読とスピーチ

司会　宮本苑生氏・下川敬明氏

理事長の閉会の言葉

忘年会風景

忘年会風景

第11期「詩の学校」① 報告

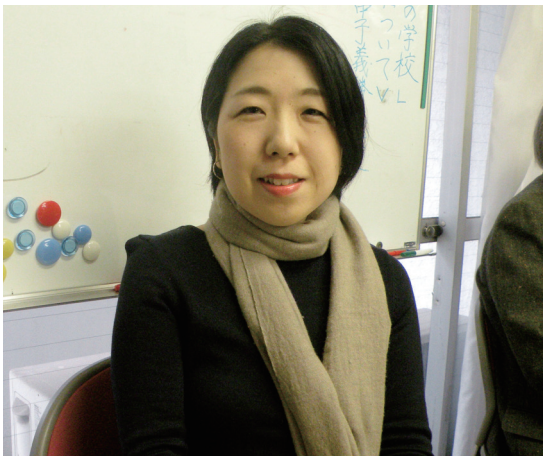
日時　2017年10月28日（土）午後2時～4時30分

場所　日本詩人クラブ事務所

2017年10月28日(土)午後2時から日本詩人クラブ事務所において、第11期「詩の学校」の開校式と講義が行われました。講師は川中子義勝会長。

川中子会長の開校の言葉から始まり、峰澤典子氏の司会進行で講義は進められました。川中子会長は詩作について「私離れの詩の言葉」と題し、詩とは何か、詩と散文、詩の人称、抒情と造形、詩的なもの、物語詩についてシラーやゲーテなどを詩を交えながら語られました。その後、参加者がそれぞれ意見や感想などを述べ合いました。

講師　川中子義勝会長



司会　峰澤典子氏

講義風景

第11期「詩の学校」② 報告

日時　2017年11月25日（土）午後2時～4時30分

場所　日本詩人クラブ事務所

2017年11月25日(土)午後2時から日本詩人クラブ事務所において、第11期「詩の学校」の講義が行われました。講師は清水茂氏。司会は峰澤典子氏。

清水氏はスイス生まれの詩人フィリップ・ジャコッテ Philippe Jaccottet（1925年～）を取り上げ、ジャコッテの詩作に常に存在する「詩への抗い」を伏線に5つの詩篇を深く読み解いていただきました。その後、質疑応答と一人ひとりが感想を述べ、閉講となりました。

講師　清水茂氏

講義風景

第11期「詩の学校」③ 報告

日時　2017年12月23日（土）午後2時～4時30分

場所　日本詩人クラブ事務所

2018 年 12 月 23 日（土）午後 2 時から詩評・受講者の作品評が行われました。講師は竹内美智代氏、作品提出の参加者は 13 名でした。司会は峰澤典子氏。

初めに全員の自作詩朗読を行い、その後に改めてひとりずつ朗読、参加者が作品評を述べ講師の竹内氏が評を述べられました。和気藹々とした雰囲気の中で参加者全員の評を終え、最後に受講者から前期の感想を伺い閉会となりました。

作品提出者（敬称略）：牧野新・渡辺一郎・林田悠来・大久保しおり・土倉公子・曲山浩・駒井喜久子・安藤初美・内田るみ・大和友子・三宮昭一・鈴木昌子・志村奏

講師　竹内美智代氏

作品評風景